



SOMPOケア

介護の未来を変えていく

豪雨災害が我々につきつけたものとは。
被災経験を活かし、改めて災害時の業務
地域生活の継続を考えよう

体験発表

2023年11月17日

SOMPOケア株式会社

そんぽの家GH秋田旭川 管理者 小田嶋 豪

SOMPOケアについて

- ・東京都品川区に本社を置く介護サービスを運営する企業で、SOMP Oホールディングスの子会社であります。
- ・秋田県には4拠点（秋田市旭川、秋田市仁井田、由利本荘市、潟上市）。

- ・SOMPOケア秋田旭川
（居宅介護支援・訪問介護・訪問看護）
- ・そんぽの家GH秋田旭川
（2ユニット 18名）

住宅街の中にあり、近くには旭川が流れています。



普段の様子



グループホーム玄関前から見た町内の様子



グループホーム 玄関ポーチ・駐車スペース

7月15日 当日の様子



グループホーム 玄関前から見た町内の様子

近隣住宅の1階部分が床上浸水



グループホーム 玄関ポーチ・駐車スペース

床下の換気口から浸水し床下浸水

7月15日 当日の状況

8:00頃 雨は断続的に降っているが、ホーム周辺は普段と変わらず

9:50頃 旭川町内、ホーム周辺が冠水

12:20頃 消防へ連絡するが、床上浸水でなければ救助の対象ではない
と返答あり

15:00頃 消防への連絡がつかず。

16:40頃 旭川ダムが17:30頃に緊急放水するとの情報が入る
放水による増水の危険性が高まったために消防隊が救助に来ることとなる

18:20頃 消防隊が到着。ダム放流状況の情報量の不足と避難経路確保に障害があり、避難実行に関して協議。人命優先と判断し避難活動開始する

20:40頃 旭川コミセンへ全員の避難が完了(スペースが限られているため他の避難先が検討される)

22:30頃 八橋老人いこいの家へ全員の移動が完了

その後の状況

・7月16日 町内とホーム外の冠水は収まったが、ホームでの生活ができる環境ではないと判断し、避難生活の継続を決定。

ホーム内の状況：汚水の臭いが充満。床下収納が汚水により汚染。

当日の救助活動等によりホーム内も汚染された状態。

ホーム外の様子：冠水によりゴミが流れつき散乱している状態。

・7月17日 ライフラインに異常がないことを確するとともにホーム内外の安全の確認も行いホームでの生活が可能と判断。

全員、無事にホームへ戻る。

反省点

- ①ご利用者の避難する順番に課題が残った。
- ②避難中の記録用紙がなかった。
- ③持ち出し品の量が限られていたため厳選して持ち出したつもりであったが、必要な物がないなどの事態が起きた。
- ④時間に余裕がなく急いで準備したため、オムツを持ってきていなかった。
- ⑤薬を段ボールに入れて持ち出したため、避難中の雨の影響により段ボールが崩れてしまい薬袋が濡れてしまった。また薬の紛失もあった。
- ⑥避難中の雨の影響によりご利用者の衣類が濡れてしまった。
- ⑦避難所に毛布が準備されていたが、持ち出したタオル類の数が足りなかった。
- ⑧シンク、洗面所、トイレの排水溝からゴボゴボと音がし汚水が逆流しそうな雰囲気であったため水囊を置いたが急な対応であったため設置方法が適切ではなかった。（作り方や設置方法はサイトを確認）

持ち出し物品



災害を経験して

SOMPOケア秋田旭川全事業所の代表と事業部長が参加し話し合いを開催。

⇒反省点を踏まえその後の業務や生活に役立っている。

- ・水害だけに関わらず、火災等の避難訓練に当日の教訓が役立っている。

⇒避難方法の変更、水囊の設置など

- ・秋田県内で災害LINEグループを立ち上げ、秋田市各方面のリアルな情報の共有につながっている。

- ・スタッフの防災への意識が強まった。

まとめ

令和5年度末で経過措置期間が終了する事項に業務継続に向けた取り組みの強化、業務継続計画（BCP）の作成が全サービスに義務付けられます。

SOMPOケアでも各事業所にてBCPの策定と必要な研修、訓練の実施を義務付けておりましたが、この災害をきっかけに改めて業務改善計画の重要性に気付くことができました。

計画を立てたからと言って安心はできません。その日のスタッフ数、ご利用者の状況、更にはその災害の規模によっても避難活動の方法は変わります。

状況変化時等に都度話し合いを行うことが、災害にあっても慌てずに冷静に判断するという行動と更なる防災意識の向上に繋がるのだと感じています。

私たちはこの被災経験を活かし、今後も災害時の業務や地域生活の継続について考えていきたいと思います。



SOMPOケア

介護の未来を変えていく